



平成 28 年 2 月 10 日

各 位

会社名 株式会社イントランス
代表者名 代表取締役社長 麻生 正紀
(コード番号 3237 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理本部部長 濱谷 雄二
(TEL 03-6803-8100)

平成 28 年 3 月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえて、平成 28 年 2 月 10 日開催の取締役会において、平成 27 年 5 月 13 日に公表いたしました平成 28 年 3 月期（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）の連結業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

(1) 平成 28 年 3 月期 連結業績予想数値の修正（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	百万円 8,100	百万円 1,300	百万円 950	百万円 780	円 銭 21.04
今回修正予想 (B)	3,000	1,300	1,100	800	21.58
増減額 (B-A)	△5,100	0	150	20	—
増減率 (%)	△63.0	0.0	15.8	2.6	—
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 3 月期)	6,334	1,027	993	966	26.07

(修正の理由)

当社では、平成 26 年 4 月に中期経営 3 カ年計画（平成 27 年 3 月期～平成 29 年 3 月期）を策定し、以下 4 つの基本施策を推進してまいりました。

- ① 自己保有による積極投資により収益の拡大を図る
- ② JV 等を活用した大型プロジェクトへの参入
- ③ パートナー企業とのアライアンス強化
- ④ M&A の積極推進（AM / PM / BM 分野）

昨今の経済状況は、中国経済の成長減速、原油価格の動向及び米国の利上げの影響等、海外経済の動向に対するリスクが懸念され、今後の事業環境については楽観視できない状況にあります。

このような背景と当社が行う開発案件の大型化及びプロジェクト期間の長期化を鑑み、当初、施策の軸として考えておりました自己保有による投資（基本方針①）は事業環境に応じて引き続き行うものの、JV等を活用（基本施策②）する施策へ軸を転換することとなりました。JV等を活用することにより、自社単独では取り組みづらい大型の開発プロジェクトに少ないリスクで参加することが可能となります。

当社が推進するJV等を活用した開発プロジェクトは、プロジェクト完了時における利益のみを売上計上する会計処理（純額計上）を行う見込みであることから、期初に予想しておりました売上高の下方修正を行います。しかしながら、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、金融調達費用等、当社の費用負担が少ないJV等を活用する施策へと軸足を移すことに伴い、上方修正するものであります。

平成29年3月期以降の業績予想値につきましては、平成28年5月に予定しております通期決算にて発表する予定であります。

※本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現段階において合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は見通しと異なることがあります。

以 上